

授業科目名・形態	臨床薬理学	講義	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	早狩 誠		実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

薬物療法に使用される薬剤の作用機序および有害事象等を講義し、患者への安全で適正な薬物療法を遂行できる医療従事者の育成

【到達目標】

患者の病態およびその治療薬の作用機序、有効性を理解し、使用医薬品に関わる有害事象の速やかな発見、その原因を説明できる。

【授業計画・内容】

- 1 基礎知識 1：医薬品の安全性・有効性を評価する体制：
- 2 基礎知識 2：薬物の代謝・吸収・分布・排泄・遺伝子多型・薬効の個人差
- 3 末梢神経系作用薬：局所麻酔剤・筋弛緩薬・自律神経系作用薬
- 4 中枢神経系作用薬：全身麻酔薬・催眠薬・抗てんかん薬・抗パーキンソン薬・向精神薬など
- 5 オータコイド・アレルギー薬：抗ヒスタミン薬・プロスタグランジン・アンジオテンシン・NSAIDs など
- 6 心臓血管作用薬：心不全治療薬・抗不整脈薬・抗狭心症薬・抗高血圧症薬・抗脂質異常症薬など y
- 7 血液造血作用薬：貧血治療薬・血液凝固阻止薬・抗血小板薬・血栓溶解薬・止血薬
- 8 呼吸器系作用薬：鎮咳薬・去痰薬・気管支喘息治療薬
- 9 消化器系作用薬：制酸薬・消化性潰瘍治療薬・制吐剤・潰瘍性大腸炎治療薬
- 10 物質代謝作用薬：ビタミンおよびホルモンの欠乏症・過剰症、糖尿病治療薬
- 11 抗感染症薬 1：消毒薬・抗菌薬の種類 1 および作用機序・副作用 1
- 12 抗感染症薬 2：抗菌薬の種類 2 および作用機序・副作用 2
- 13 抗悪性腫瘍薬 1：抗悪性腫瘍薬の種類 1 および作用機序・副作用 1
- 14 抗悪性腫瘍薬 2：抗悪性腫瘍薬の種類 2 および作用機序・副作用 2
- 15 生物学的製剤：ワクチン・免疫抑制剤・免疫増強剤

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行い、教科書に沿ったスライドを用い丁寧に解説し、理解度を高める。

【授業準備】

予めシラバスを確認し、当日の講義内容について教科書に記載されている部分を一読し、予備知識を得ておくことが重要である。なお、理解できなかった点は、適宜教員に質問し、早めの理解を心がけること。

【主な関連する科目】

生理学および生物化学

【教科書等】

クイックマスター 「薬理学」 鈴木 正彦 著 サイオ出版

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

全講義終了後、定期試験（80%）を行い、講義中の小試験（20%）との総合点が 60 点以上を合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

担当者は、青森県警科捜研への勤務を筆頭に、八戸日赤病院の薬剤師を経て、弘前大学医学部法医学講座・生化学講座に勤務後、最後に同附属病院薬剤部に薬剤部長として勤務した経験を有している。勤務全般を通じて疾患の成因をはじめ、それらに対する作用薬の機序、効果、そして副作用の発現について多くの研鑽を積んでいる。これらの経験を活かした講義を通じて患者への安全で適正な薬物療法を遂行できる質の高い医療従事者の育成を目指す。

【学生へのメッセージ】

講義内容は科学用語が多く理解しにくい可能性があるが、常に自分が医療の現場に身を置いている状況を想定して授業に臨む事によって、理解度が上がるはずである。得た知識を貴重な情報源として将来の業務に役立ててほしい。